

太郎・次郎滝

この2つの風光明媚な滝には、十日市場と夏狩の大湧水群の水が流れ、10メートルの高さから 柄杓流川へと流れ込んでいます。言い伝えによると、この2つの滝は、昔、ここで亡くなった、太郎と次郎という、2人の兄弟にちなんで名付けられました。2人は生きていくために、ものを盗み、怒った村人が隠れ家を見つけると、逃げ出しました。追いかけて慌てたため、兄弟は崖から落ちてしまいました。太郎が落ちた場所は太郎滝、次郎が落ちた場所は次郎滝として知られるようになりました。

柄杓流川は、文字通りだと「柄杓の流れ」を意味し、これにも古い言い伝えがあります。ある時、神が、富士山の麓にある河口湖に柄杓を落としました。柄杓の柄は、湖の底に穴を開け、そこから、この川の源流がある、近くの三つ峠へと水が流れる水路を作りました。そこから、この川は太郎・次郎滝を通過して、最終的には桂川と合流しています。